今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.11
関東マルエス株式会社 様

高いレベルでの安全性が求められる「危険物輸送」多彩な取り組みを通じて事故撲滅を目指す

高いレベルでの安全性が求められる、高圧ガスなどの危険物輸送。高圧ガス・液化ガスの専門輸送会社として事業を行う関東マルエス㈱では、交通事故や作業中の事故を未然に防ぐため、安全性向上に懸命に取り組んでいる。

車両の前に笑顔で立つ福本社長。同社ではタンクローリー車が主体となっている

■「側乗指導者による実地教育」を強化　運転・作業操作に磨きをかける

関東マルエス㈱（福本路昭代表取締役社長）は平成３年、マルエス工運㈱（兵庫県尼崎市）の地域会社として設立された運送会社である。マルエス工運はもともと福本社長の父親がオーナーを務めてきた歴史があり、現在マルエス工運は福本社長の兄の正昭氏が、またマルエス工運のグループ会社である西日本マルエス㈱は弟の詳造氏がそれぞれ社長を務めている。

福本社長は、昭和 48 年から 51 年にかけて、まだマルエス工運の営業所のひとつとして開設されていた市川営業所に、管理職として勤務した経験がある。平成３年の設立時に同社の社長に就任した福本社長は、当時まだ 42 歳という若さだった。しかし、就任当時はかつて一緒に働いていた従業員がまだ在籍していたこともあり、福本社長は、同社の仲間たち、そして荷主にも恵まれ、周りのフォローを得ながら同社を力強くけん引していった。

さて、同社では関東地方を中心とした高圧ガスなどの危険物輸送、また高圧ガスに係る施設・設備のメンテナンス業務を主な事業としている。危険物を安全に輸送するにあたっては、何よりも事故を未然に防ぎ、高いレベルでの安全性に磨きをかけていく必要がある。同社では、「３S（Safety= 安全、Surely ＝確実、Speedy ＝迅速）＋α」を企業理念に定めるとともに、「8S（整理・整頓・清掃・清潔・躾・作法・指差呼称・使命感）」を大切に、安全最優先で日々の業務を遂行している。

それでは、ここで同社における安全性向上への取り組みを紹介していく。

同社では毎年、管理職・同社の各労働組合代表・協力会社代表が一堂に会して、「年頭安全宣言会議」を開催している。今年も１月 18 日に開催され、今回で 26 回目を数えた。ここでは、各部門の年間重点施策（目標・行動）ならびに今年のキーワードを発表し、一同で協議した上で決議を行う。

福本　路昭　代表取締役社長

ちなみに、福本社長に今年のキーワードを伺ったところ、まず「集中する」であるという。近年、運転中のスマホ操作などといった「ながら運転」が問題になっている。「プロドライバーとして、運転中は私心を捨てて運転だけに集中してほしい」という思いを、キーワードに込めた。もうひとつのキーワードとして、福本社長は「考える」を挙げた。同社では荷主先での構内走行や積み卸し作業の際のマニュアルが整備されているが、異常時にはマニュアル通りにはいかなくなることもある。「普段とは違うことがあったら、まずは適切な対応を考えて、自分で判断できなければ会社に判断を仰いでほしい」という思いを、キーワードに込めているという。

また、本社と各営業所で安全ミーティングを開催（月１回）。年末には、月替わりの安全標語を社員から募集し、ミー

荷主先構内での接触事故を未然に防ぐため、出発前に構内における注意事項などを確認する

高圧ガスなどの危険物を安全に輸送するためには、ローリー車の点検が欠かせない

側乗指導者による定期的な実地教育を通じ、運転や作業操作など基本ルール遵守を徹底している

ティングの際に指差唱和するようにしている。

さて、同社における安全教育の中で最も特徴的なのは、「側乗指導者による実地教育」を強化していることである。同社では側乗指導者有資格制度を設けており、各営業所に側乗指導者が配置されている。側乗教育では、乗務員の車両に定期的に側乗教育資格者が添乗し、運転・作業操作・マナー等の基本ルールを再確認するとともに、運転操作や作業操作の中に危険要因が見られた際には改善指導を行う。新人研修の際にも側乗指導者による側乗教育を行い、一人乗務の可否について見極めを行うようにしている。こうした資格を持つ指導者による的確な指導を通じて、高いレベルでの安全性をキープしている。

ところで、危険物輸送を行うに際しては、様々な資格の取得が必要となってくる。まず、車両を用いて高圧ガスを移動する際に、安全に輸送できるよう監視･管理を行う「高圧ガス移動監視者」の資格は、同社のドライバーには必須の資格である。また、高圧ガスや液化石油ガスによる災害を未然に防ぐためには、「高圧ガス製造保安責任者」の資格も欠かせない。なお､同資格は「化学責任者」「機械責任者」の２種類があり、職務に応じてそれぞれ甲種・乙種・丙種の３段階に分類されている。同社では、丙種責任者資格、乙種化学責任者資格・乙種機械責任者資格を取得したドライバーには１種類につきそれぞれ手当を支給し、従業員のモチベーションアップに繋げている。

なお、同社では車種別（大型、けん引、セルフローダーなど）・ガス別（炭酸、水素、アンモニアなど）の認定制度も設けられている。ドライバーはそれぞれ必要な資格を取得した上で、側乗指導者による実地教育を受け、見極めに合格して初めて当該車種への乗務や当該ガスの輸送ができるようになるのである。

ドライバーが作業などの際に使用するヘルメットには、保有資格が分かるようにシールを貼付するようにしている。保有資格を「見える化」したことで、荷主の安心感醸成に結びついているという。

「高圧ガスなどの危険物輸送を行っていることから、当社の荷主は安全に対する考え方が厳しく、荷主の皆様に安全への意識を鍛えていただきました。運送事業者にとって、事故を惹起することは社会的に許されない行為です。当社ではこれまで様々な施策を通じて、安全への取り組みをレベルアップさせてきました」（福本社長）

さて、社長に就任してから 30 年が経とうとしている今、福本社長は円滑な事業承継に向けた取り組みを考え始めているという。

「事故はいつ起こるか分かりません。そういう意味では、運送事業者は『毎日がリスクと隣り合わせ』です。荷主の皆様や当社の従業員のおかげで、当社はこれまで健全経営を続けることができました。安全への取り組みを積み重ねて安全性を一層向上させ、当社をいい形で次世代に引き継ぐことができればと考えているところです」（同）

ホットにゅーす

「従業員に健康への意識を高めてもらいたい」日頃の運動で社長自ら汗を流す

スポーツが得意な福本社長｡学生時代には自転車部に所属し、岸記念体育会館で開催された第１回「全日本大学サイクルサッカー選手権大会」にも出場したほどだ。また、学生時代から続けているゴルフも福本社長の趣味だという。

「GOLF の G はグリーン（緑）、O はオゾン（酸素）、L はライト（光）､F はフット（足）で､これらを繋げると､ゴルフは『緑の上できれいな空気（酸素）を吸って、太陽の光を浴びながら足で歩くスポーツ』だということができます。ゴルフは、健康にいいスポーツだと言えるでしょう」（同）

また、日頃から、会社への行き帰りの際には歩くように心がけているという。

社長が運動で自ら汗を流し、従業員に健康な姿を見せることで、従業員に対して健康維持の重要性を示す効果も期待できるだろう。

福本社長は「1 日 9000 歩」を目標に、日頃から歩くことを心がけているという

企業プロフィール

関東マルエス株式会社

代表取締役社長　福本　路昭

千葉県市川市田尻 3-3-5

従業員　64 人（ドライバー 48 人）

台　数　47 台